

# 小川BSスマートIC(仮称)とアクセス道路の整備事業の状況について

町では、隣接する宇城市との共同により、スマートインターチェンジ(以降「スマートIC」と表記します)を高塚地区にある高速道路の小川BS(バスストップ)付近に設置する事業を進めています。今回は、その事業の内容について説明します。

## 1. スマートICとアクセス道路について

スマートICの形状とアクセス道路の線形は下図のようになります。

## 2. 宇城市との負担割合について

6月15日に宇城市との間で基本協定書を締結しました。基本協定の内容は、氷川町と宇城市が、自主財源として実質負担する割合を概ね「氷川町4：宇城市6」となるもの。

この基本協定に基づき、氷川町内のアクセス道路については、氷川町で整備し、宇城市内のアクセス道路(国道3号側と市道東小川環線側)については、宇城市で整備するようになります。

また、氷川町と宇城市の共通部分となる、橋梁部およびスマートIC接続道路下部参照については、右記の負担割合になるよう整備事業費の負担を調整します。(現在の概算事業費では、橋梁部を「氷川町1：宇城市9」、スマートIC接続道路部を「氷川町5：宇城市5」で負担するようになります。)

## 3. アクセス道路とスマートIC接続道路の整備事業費について

※次に示す事業費は、概算事業費であり、今後の測量・設計の進捗により、精査していきます。

○アクセス道路・スマートIC接続道路部の事業費  
**全体事業費(宇城市分含む) 17.9億円**  
 (内訳アクセス道路：13.2億円、橋梁：3.4億円、スマートIC接続道路：1.3億円)

○財源と負担  
**アクセス道路事業費17.9億円**の財源として、**国の交付金や合併特例債**を活用します。  
 17.9億円の財源は、次のとおりです。

**国交付金：11.1億円、合併特例債：6.4億円、一般財源：0.4億円**  
 ただし、合併特例債は、借金ですので元金・利子の合計は7億円になります。しかし、元利償還金の70%の4.9億円が地方交付税に算入されますので、借金返済に必要な地元の実質的な負担は、2.1億円(借入条件によって変動があります。)となります。

先に示した整備事業にかかる一般財源の0.4億円と、この2.1億円を合わせた2.5億円が氷川町と宇城市で実質負担する額となります。

この2.5億円を「氷川町4：宇城市6(氷川町1億円：宇城市1.5億円)」となるように事業費を負担することになります。

## 4. スマートICとアクセス道路の事業スケジュール

- 平成23年度には、地元説明会を実施しながら、次の事業を進めていきます。
- ① 地籍調査の進捗状況に合わせて、用地測量(事業用地の確定に必要な測量)を行います。
  - ② 用地測量終了後、用地や補償に係る調査を行います。
  - ③ 用地・補償に係る調査終了後、用地買収等を行います。
- 用地取得が完了後、工事へと進め、平成25年度での完成を目指していきます。

【問合せ先】  
 宮原振興局 総務振興課 企画係 ☎62-23317

